6 提出意見と町の考え方

No.	提出意見（原文どおり記載）	町の考え
1	<p>(P25～40) 第2章 ニーズ調査からみた子育て家庭の状況</p> <p>私は40代のサラリーマンとして日々仕事をしながら、子どもを持つ親としての視点から「下諏訪町こども計画（案）」を拝見しました。特に、第2章の内容全体については、以下のように感じました。</p> <p>■ ニーズ調査の範囲拡大・多角化</p> <p>現在の町内アンケートや統計データだけでは、社会の最新トレンドや子どもたちの将来に向けた「発展的なニーズ」が十分に拾い切れない可能性を感じます。町外の専門家や全国の先進事例の情報を積極的に取り入れて、より広い視点から具体的かつ未来志向を検討していただければなと思いました。</p> <p>■ 外部のプロフェッショナルの活用</p> <p>計画的な段階で、大学研究者や子育て支援に関わる外部の専門家を招き、先端知識を町民にも共有していただければ、多様なアイデアが生まれると思いました。</p> <p>多面的な知見を用いることで、将来的に必要なとされる支援やサービスの方向性を、より適切に知るができると思います。町の子どもたちが夢を持って成長できる環境づくりのためにも、より先進的な視点からの分析・考察をお願いしたいです。</p>	<p>広い視点を持ち、町外の専門家や大学研究者などの知見や全国の先進事例を参考にすることは、社会の変化に対応し、未来を見据えた施策を検討する上で重要であると認識しております。いただいたご意見は、本計画の見直しの際や次回の計画策定時に参考とさせていただき、より発展的なニーズを的確に捉えられるよう努めてまいります。</p>

2	<p>(P41) 第3章 本計画の基本的な考え方</p> <p>第3章「本計画の基本的な考え方」にある「基本理念」「基本方針」については、全世代が協力し合う体制が感じられて、前向きに拝見させていただきました。</p> <p>■ 具体的な未来像の示唆</p> <p>これまで「異世代間の対話を伴う交流事業」や「地域全体での創造的な学習プログラム」など、住民が具体的に参加できることで示すことで、「喜びと感動」がどう実現されるのかが見えやすくなると思いました。</p> <p>住民自身が国際的な視点を広げたり、新しい技術や文化に触れる機会を積極的に受け入れることが、未来への希望を育むのに効果的だと思います。</p> <p>■ 柔軟な受け入れ体制の整備</p> <p>現在の人口構成を踏まえると、新しい価値観や文化の導入に抵抗を感じる方も少ないと思います。</p> <p>ですが、町を支えるのは今の子どもや若者たちです。将来への試みや土壌を育てるためにも、世代間の意見交換やワークショップの開催など、具体的に「対話検討の場」を計画に盛り込んで、理念がより実践的に生きると感じました。子どもたちが「この町なら自分の未来を描ける」と感じられる魅力ある計画になることを期待しています。</p>	<p>将来を担う子どもや若者のために、新しい価値観や文化を取り入れながら、世代間の意見交換を進めることの重要性は、強く認識しております。ご提案いただいた「対話検討の場」の設置について、子どもたちからの意見については、P72において、「こども・若者の意見を得る機会の充実」において記載しておりますが、「世代間の意見交換」についても大事な要素だと考えますので、同施策内に文言を盛り込みました。</p>
3	<p>第4章「こども・若者・子育て家庭が安心して暮らせる環境づくり」には、こどもや家庭の状況に応じた支援や、こども・若者・子育て家庭が安心して暮らせる環境づくりについて理解することができました。安心できる環境について、私の意見です。</p> <p>■ 安心の定義について</p> <p>安心とは、防犯や医療体制だけを指すのではなく、「新しい価値観を柔軟に取り入れられる雰囲気や仕組み」も含まれると信じています。</p>	<p>ご意見をいただいたとおり、高齢者の割合が高い当町では、現状維持を望む声が多くなる一方で、未来を担う子どもたちのため</p>

	<p>特に、新しいことに挑戦しても歓迎される空気を政策に反映してほしいです。</p> <p>■変化を肯定する仕組みづくり</p> <p>人口割合的に高齢者が多い町では、どうしても「変化より維持を望む声」が強くなる傾向があります。ですが子どもたちが夢を考えるために、新しい文化や価値観を取り入れ、今の常識や活動・既存施設を含めて柔軟に見直す勇気が必要だと思います。</p> <p>「安心」を生活面での安定だけではなく、「未来への希望を生み出す活力」を含めることで町全体が活気を取り戻し、子どもたちが胸を張って暮らせる町作りに、町民の1人として関われば嬉しいと感じました。</p>	<p>に、新しい文化や価値観を取り入れ、柔軟に見直す視点が必要であるというご指摘は、町の持続的な発展を考えるうえでも大切な観点です。町としても、「安心」を単に生活面での安定にとどめるのではなく、「未来への希望を生み出す活力」も含めたものとして捉え、子どもたちが夢を持ち、胸を張って暮らせるまちづくりを進めていきたいと考えております。</p> <p>本計画への反映でなく、令和8年度にスタートする町の第8次総合計画に反映されるよう担当係とも情報共有を図ります。</p>
4	<p>(P53～P55) 第4章 基本目標2</p> <p>基本施策2 心身の豊かさと将来を描く力を養う教育の推進</p> <p>子どもたちには『自分で考えて行動できる』とともに、『困ったら周囲に助けを求められる』ようになって欲しいです。先生や親には相談しにくいこともあるので、その他の人に相談できるようになるといいのですが、スクールカウンセラーは相談できる日が決まっているので気軽に相談できません。ボランティアなどで、子どもたちが自分の気持ちを気軽に話せる人がいてくれるといいと思います。</p>	<p>現在、悩みを気軽に話せ、ストレスを和らげることのできる教員以外の第三者的な相談員を各学校に配置し、子どもたちの相談に応じておりますが、「こども家庭センター」でも随時ご相談を受け付けておりますので、お気軽にご利用ください。相談者の意見や希望を確認しながら利用できる制度のご案内や関係機関につなげていきます。</p> <p>こども家庭センターについては、P71に記載しておりますが、P55にも記載いたします。</p>
5	<p>(P67～P69) 第4章 基本目標4</p> <p>基本施策2 発達の遅れや障がいのある子どもへの支援の充実</p> <p>ここに紹介されている事業を複数回利用しました。お世話になり感謝しています。おかげさまで、通常級で授業を受けられるくらいに落ち着きました。しかし、学校では先生によって不用意に子どもが傷つけられることがあります（先</p>	<p>引き続き学校の先生方が発達障がいに関する理解を深められるよう取り組んでまいります。先生と発達障がいのある子どもやその保護者との間に入ってくださる方については、本計画のP68に記載しておりますが、</p>

	<p>生にその意図がないことは理解しています)。できれば先生方にも発達障害について勉強していただきたいのと、先生と発達障害のある子どもやその保護者との間に入ってくれる方がいてくれると心強いです。</p>	<p>「特別支援コーディネーター」を各学校に配置し、特別支援を必要とする子どもと教員の橋渡し役としての役割を担っております。特別支援コーディネーターは、保護者の皆様のご相談にも対応し、学校側との調整を行うことができますので、ぜひご活用ください。</p>
6	<p>子ども計画に限らず総合計画の作成を外部に委託するのではなく、下諏訪町の官民共同で作成すべきだと感じています。</p>	<p>こども計画の策定において、ニーズ調査や数値分析など専門的な部分は、的確な分析のため専門業者に委託しています。一方で、計画の根幹は町の実情に即したものとするため、子ども・子育て会議による審議を行うなど官民共同で作成しています。ニーズ調査や数値分析の委託は全国のほぼすべての自治体が行っており、統計的な正確性と計画の実効性を高めるために必要なものです。ご理解のほどよろしくお願ひいたします。総合計画については、計画策定に関して業者には委託せず、町民の皆様のご意見を伺う機会を設け、更に審議会等による検討を経て、パブリックコメントを実施し策定する予定です。</p>
7	<p>(P54～P55) 第4章 基本目標2 基本施策2 心身の豊かさと将来を描く力を養う教育の推進</p> <p>教育、登校に不安を持つ子ども、登校できない子ども達が相談、身を寄せる場を学校や中間教室だけでなく選んで行ける事も必要と思います。(特に図書館の1室では余裕がなく居づらみたいです。もう1か所でも増やせたら)</p>	<p>不登校の支援については、それぞれの困りごとや悩みごとに寄り添いながら目標を設定することが大事だと考えています。学校への登校だけを目標とするのではなく、不登校の児童生徒の意見も尊重しながら目標を設定する教育相談を実施するとともに、多様な学び方を選択できるような居場所を確保していきます。また、現在図書館の1室を活用した中間教室（スマイル教室）においても場所の確保を含め、担当係において検討していきます。</p>

8	<p>(P57～P58) 第4章 基本目標2 基本施策3 地域の特性を生かした児童健全育成活動の推進</p> <p>・子どもの居場所づくり補助金と有志の方による実施はたくさん計画されて素晴らしいです。連携してやるのも可能かも。</p> <p>・町主体で形をつくり、こどもセンターとか児童センターとして、中高生までが安心して将来まで使用できる施設を確保する事は『町への信頼』となり子どもの安心につながるのでは。</p>	<p>子どもの居場所づくり補助金の活用や有志の方々による取組が広がっていることは、大変意義深く、地域全体で子どもを支える大切な取り組みであると考えております。今後、こうした活動同士の連携についても、可能な形を模索してまいります。また、町が主体となり、こどもセンターや児童センターのような、中高生までが安心して利用できる施設を確保することが、子どもたちの安心感や町への信頼につながるというご意見についても、重要な視点と受け止めております。本計画には記載していませんが、今後開店予定のイオン諏訪店（仮）の活用も含め今後の検討事項とさせていただきます。</p>
9	<p>(P53、P71、P75、P77) 人権教育</p> <p>人権教育『自分は大切な人間なんだ』と子ども達がいつでも思える事、『友達やまわりの人を思いやる』事ができる人になるにも、まず『自分は大切な存在』と思える事が必要です。塩尻市が20年間続けている『CAP』人権教育プログラムを大人も子どもも知ってほしいです。虐待、暴力防止のためにも大人にも知らせたいです。</p>	<p>「自分は大切な存在である」と子どもたちが実感できることは、人権教育の根幹であり、他者を思いやる心を育むためにも大変重要です。塩尻市が取り組んでいる「CAPプログラム」は、子どもが自分の権利を理解し、暴力や虐待から身を守る力を育むための大切な人権教育プログラムであり、多くの方に知っていただくことが望ましいと考えておりますので、人権教育研修会の開催の在り方も含めて今後どのように周知・啓発をしていけるか検討を進めてまいります。</p>
10	<p>全体に関する内容</p> <p>計画案は大変良くできていると存じます。そこで以下の提案をさせていただきます。</p> <p>子供と家庭を取り巻く環境は大変変化し、悪く</p>	<p>現在、こども家庭センターの機能は教育こども課内に設けております。新たな施設の建設は理想的ではありますが、土地の確保</p>

10	<p>なっています。子ども食堂や居場所づくり、障がい者、不登校、DV など多岐にわたり問題ばかり目につきます。そしてこの問題の解決に民間、個人による活動も増えてきていることも事実です。それを円滑にして、発展していただくことは大切で進めなくてははいけません。しかし個人のできることに限りがあり、偏っていくこと、事故があったときに大変な問題にあることが危惧されます。</p> <p>そこで提案です。下諏訪町は行政サービスが同一地域に集約されています。役場、総合文化センター、保健センター、図書館、公園、体育館、スタジアムなど集中しています。また、コンパクトな町なので距離的な障害は少ないものです。そこで常設建築物、こども家庭センター（仮称）をこの地域に作ってはどうか。たとえば塩尻市のエンパーク、諏訪市のいきいき元気館のように町の管理する施設において、責任者を置き、管理して居場所づくり、こども食堂、不登校の対応、など多くの仕事が集中的にできれば安全な安心な町になると存じます。特に多額の事業には民間では実施できません。ぜひ検討ください。</p>	<p>や建設費用など、多大な財政負担を伴うため、慎重な検討が必要です。今後は、イオン諏訪店（仮）内に設置を予定している「子育て・多世代交流施設」を含め、既存施設の改修や集約化など、より住民の皆様にとって使いやすい施設機能について検討してまいります。</p>
11	<p>(P4)</p> <p>「統計データからみた子育て家庭の状況」の中に、生活保護世帯の状況(18歳未満の生活保護受給世帯の状況が分かれば、それも)について触れるべきではないでしょうか。「ひとり親世帯数の推移」の後あたりに、入れるべきと思いますが、いかがでしょうか。</p> <p>また、「いじめ」や「自殺」も、問題視すべきと考えます。現状記載を求めます(自殺者数の町内数把握が困難であれば、県データでもかまわないと考えます)が、いかがでしょうか。</p>	<p>町内の生活保護世帯のなかで、今回の計画の対象となる年代の方がいないため統計データとしては記載いたしません。P65の「生活困窮者自立支援」の事業の内容に、「生活保護世帯」の文言を追記し、併せて事業名も「生活困窮者等自立支援」に変更することで、生活保護世帯の方も含め支援してまいります。いじめや自殺についての現状データについてですが、それぞれの対策計画との整合を図る必要があることから、貴重なご意見として、本計画の見直し時及び計画の改定時において参考としてまいります。</p>

12	<p>(P25)</p> <p>「ニーズ調査からみた子育て家庭の状況」では、就学前児童及び小学生の保護者を対象にしたアンケート調査の結果が分析されています。大切な情報と分析だと思います。が、子どもの意見や要望は、どうなのでしょう。未就学児、小中高生へのアンケート調査や、年齢の小さい層に対しては聞き取り調査などを行い、計画に反映させるべきと考えます。次期計画策定に向けては、ご配慮願います。</p> <p>72Pには「こども・若者の意見を得る機会の充実」が掲載されており、今後に期待をするところです。より多くの意見・要望を把握することで、計画がより「子どもを中心にすえた」ものになるのではないのでしょうか。</p>	<p>ご意見いただいたとおり、より多くの方々の意見や要望を反映させることで、こどもにとってより良い計画となることが重要です。そのため、次期計画の策定にあたっては、こども自身が意見を述べる機会を設けることを検討し、その声を計画に反映できるよう努めてまいります。</p>
13	<p>(P50)</p> <p>「新たな地域子ども・子育て支援事業の提供体制の整備」にある「新たな地域子ども、子育て支援事業」との記載は、「こども誰でも通園制度」のことですよね。P97には具体的な事業内容や事業名称に触れられているのですから、P50にも「こども誰でも通園制度」と明記してもいいのではないのでしょうか。既に保育士さんの確保に苦勞している当町の現状を鑑みれば、国が求める令和8年度からの開始には慎重をきすべきだと思います。その点での議論を十分に重ねていただきたいことを、要望します。</p>	<p>P50の『新たな地域子ども・子育て支援事業の提供体制の整備』には、ご指摘のとおり、『こども誰でも通園制度』を含む新たな地域子ども・子育て支援事業が記載されております。『こども誰でも通園制度』については、制度の概要がすでに固まってきているため、ご指摘いただいたとおり個別に新たな記載を追加いたします。</p>

14	<p>(P53)</p> <p>「基本施策2 心身の豊かさと将来を描く力を養う教育の推進」の「取組の内容」に、是非、「こどもの権利条約の普及促進」を加え、こどもが社会の一員として尊重されるように「こどもの権利条約」について積極的な学習を進めるとともに、普及・啓発に努めることを記載いただきたいのですが、いかがでしょうか。</p>	<p>ご意見いただきました「こどもの権利条約」の精神を反映したものが令和5年に施行された「こども基本法」であり、こども政策の基本理念として、こどもの権利を尊重することが明記されています。この「こども基本法」に基づき、当町では「こども計画」を策定し、こどもの権利を保障するための具体的な施策を進めています。具体的にはP72に記載したような取り組みになりますが、「こどもの権利についての学習や普及・啓発」は重要な視点であり、具体的な施策の中に記載させていただきました。</p>
15	<p>(P84)</p> <p>「保育事業<3号認定(0~2歳児)>」、未満児保育の受け入れについて、「令和6年度現在、町内3箇所の保育所で受け入れを行っています。量の見込みのピークである令和7年度及び令和9年度の必要利用定員総数84人に対し、受け入れ可能人数(=確保の内容)は上回っています」とされていますが、令和6年度は待機者を出してしまっていたはず。町内公立保育園を3園体制とした当時の推計より、未満児保育のニーズが高まっているはずで、現状の受け入れ態勢の維持で大丈夫なのか、不安が残ります。受け入れ数の上方修正は、必要ないのでしょうか。</p>	<p>計画に記載している受け入れ可能数については、必要な保育士が確保されたうえで、各施設の部屋面積等に基づき算出した最大の受け入れ数となっています。</p> <p>また、受け入れの量的な見込みについては、ニーズ調査をもとに適切に算定しており、必要な保育士が確保できれば待機児童は発生しない見込みです。しかし、令和6年度のように急な保育士の退職等により受け入れが困難となり、結果として待機児童が発生する可能性は今後も否定できません。従いまして、受け入れ数の上方修正は予定している保育士を確保することで行わないこととしますが、確実に確保できるよう取り組みを強化してまいります。</p> <p>これは全国の自治体に共通する課題であり、保育士の確保が喫緊の課題となっている状況です。</p>

16	<p>(P87)</p> <p>「放課後児童健全育成事業<学童クラブ>」。既に、南小学童では、ニーズを満たしていません。「量の見込みとして見込んでいる児童全員が毎日利用するとは限らないことから、概ね利用ニーズを満たすことは可能と判断されます。今後、小学校の余裕教室や特別教室等の一時的な活用等により、適切な提供体制の確保に努めます」とされていますが、早急な対応が必要ではないかと思えます。いかがでしょうか。</p>	<p>南小学校については、現在、定員を超えた受け入れを行っております。これは、共働き世帯の支援と待機児童の発生を防ぐための、やむを得ない対応として実施しているものです。そのため、受け入れ体制の整備は喫緊の課題であり、現在、強い危機感を持って検討を進めているところです。特に、更なる支援員の確保や施設整備のための費用負担の増加については、学童クラブ利用者の使用料にも関わる問題であることから、慎重な議論が必要と考えております。引き続き、関係者の皆さまのご意見を伺いながら今後の利用者数の推移も勘案するなかで、より良い受け入れ体制の整備に向けて取り組んでまいります。</p>
17	<p>(P56)</p> <p>外でバスケできる場所を増やしてほしいです。町のテニスコートは何面もあるので、その一つを無料でバスケ等のスポーツをして遊べる所にするとするのはどうでしょうか。または、球場の軒下あたりにゴールをとりつけるというのはどうでしょうか。文化センター噴水横のバスケのゴールが無くなり居場所がひとつ減りました。赤砂崎のコートは良いですが、ちょっと遠くて人目も少ないと感じます。</p>	<p>ご要望として承り、担当課には情報を共有させていただきました。今後の町の施策の中で研究してまいります。</p>

18	<p>(P41) 2- (2) (P56) 課題</p> <p>方針に賛成です。上記の提案は、『文化センターのバスケットが無くなってすごく残念』という娘の一言をもとに書きました。ただ、こどもに意見を言って、書いてと頼んでも出ないし、こども議会に出るような人は一握りだと思います。そこで、親やまわりの大人がこどもの声を拾ったら、町へメールで届けられる窓口をつくるというのはどうでしょう。『今とこれからのこども(町づくり)』のために、こどもの代弁、中高生、保護者自身のつぶやき、アイデア、要望、困りごと・・・など生の声を寄せてもらう窓口です。</p>	<p>現在、町では町民の皆様と町長との意見交換の場として「おでかけ町長室」、また町民の皆様からのご意見やご提言、お問い合わせを伺う方法として「町長への手紙・メール」「担当課へのお問い合わせメール」などを実施しております。</p> <p>特に、「町長への手紙・メール」にお寄せいただきました内容は、直接町長が拝見させていただきますいております。</p> <p>町民の皆様が町の施策やまちづくりについて関心をお持ちいただくことが、住みやすいまちづくりへの第一歩と考えておりますので、こうしたツールもお使いいただきながら、ちょっとしたことでも構いませんので、皆様の「声」をお寄せいただければと思います。</p>
19	<p>(P56)</p> <p>体育館の無料開放日を学校で生徒さんに伝えてもらったり、アプリ『すぐーる』でお知らせしてはどうでしょう。</p>	<p>ご要望として承り、担当課には情報を共有させていただきました。今後の町の施策の中で研究してまいります。</p>
20	<p>(P51、P52)</p> <p>『確かな学力』とはどういうものなのだろう？と思いました。また『学校運営委員会にて、学校と地域が町で育てたいこどもの姿』というのは、他人の理想にこどもをはめ込むのでは？と私は思いました。日頃『こども』や『学び』のことに関心を寄せる中、考えさせられたコラムがありましたので、参考までに添付いたします。</p>	<p>「学校教育による確かな学力の育成」についてですが、町の思いとしては、これは単に知識を詰め込むということではなく、子どもたちが自ら学び、考え、活用できる力を育むことを意味しています。学力には基礎的・基本的な学びに加え、思考力や判断力、表現力なども含まれます。こうした力を身につけることで、子どもたちが将来、自らの道を切り拓いていけるよう支援していくことが重要だと考えております。</p> <p>また、「学校運営委員会にて、学校と地域が町で育てたいこどもの姿」についてですが、これは特定の理想像に子どもを当てはめるということではなく、地域全体で子どもたちの成長を支えていくために、どのような</p>

		環境を整えていくべきかを考えるものです。子ども一人ひとりの個性を尊重しながら、より良い学びの場をつくるために、学校・家庭・地域が協力していくことを目的としていますのでご理解をいただければ幸いです。
21	(P59) 将棋クラブがあったら楽しそうだなと思います。すわっちゃおでそのようなグループを見つけ、いいなと思いました。	「すわっちゃお」で見かけた将棋クラブについてのご感想ありがとうございます。現在、町としてはそういったクラブの活動状況を把握できておりませんが、地域の中で自然とこうした交流の場が生まれ、広がっていくことはとても素晴らしいことだと考えております。
22	病児保育を下諏訪町で再開して欲しいです。近くに祖父母もおらず、子どもの軽症の風邪でも母親が家にいなければならず、仕事をするのに壁になっています。	以前は町内の病院において病児・病後児保育施設が運営されておりましたが、現在は病院側の事情により運営が終了しており、新たに町内で受け皿を確保することが課題となっております。こうした状況を踏まえ、当町では現在、町内に病児・病後児保育施設がないことへの対応として、町外の病児・病後児保育施設を利用されたご家庭に対し、利用料を全額補助する制度を設けておりますのでご利用いただきたいと思います。引き続き、町内での病児・病後児保育のあり方について検討を進めてまいりますので、ご理解のほどよろしく願いいたします。
23	こども食堂の1つとして夕食会が欲しいです。塩尻では『ふれあいセンター広丘』という社協も入っている施設で、月1のお風呂、夕食会を行っています。下諏訪でも老福センターを活用してそんな会が開ければいいなと思います。老福センターの利用には年齢の制限がありますが、是非議論をお願いします。	町にはこども食堂の活動をする団体がいくつかあり、町では会場提供や運営費の補助により活動に協力しています。今後の活動充実に向けて、今回いただいたご要望を活動している方々にお伝えしたいと思います。また、ご意見の中での老人福祉センターの利用についてですが、老人の福祉のための施設であることから、当施設の利用は難しい状況です。しかし、仮に実施団体か

		ら要望があった場合には、他の施設等の利用も含めて検討してまいります。
24	<p>(P79)</p> <p>「教育・保育提供区域」の設定は1区域になっていますが、学校は小学校2区域としています。43ページに書いてあるように少子化で令和5年の出生数が85人です。この子たちが小学校に上がる時、果たして2校制を維持できるのでしょうか。教育委員会がどのような展望を持っているのか示していただきたいと思います。</p>	<p>現在のところ、学校の統合について具体的な議論は行われておりません。しかしながら、近年の出生数の推移を踏まえると、将来的には児童・生徒数に変化が生じることが予想されます。そのため、将来の教育環境をどのように整えていくべきかについては、慎重に考えていく必要があると認識しております。一方で、「学校の統廃合」という言葉が一人歩きすることで、児童・生徒や保護者の皆様に不安を与えてしまうことは避けなければなりません。将来の子どもたちにとって最適な教育環境を提供できるよう、関係者の皆様と協議を重ねながら、適切な形で検討を進めてまいります。</p>
25	<p>(P55)</p> <p>「スマイル教室」の利用はP53の記載によると現在11名で増加傾向にあると書かれています。一方不登校率は小中学校合わせて4.78%と示されているのでおおよそ56名と考えられます。P55に書かれている図書館での教室はとても狭く、不登校の児童生徒を全員受け入れられるスペースではないと思います。また、不登校の児童・生徒は平日の居場所が必要な子どもたちだと考えます。アンケート結果の中で、「地域の子育て支援の事業が充実してない」という回答も多く。居場所の必要性を感じます。中間教室の在り方も含め、場所の確保を行政にお願いしたいと思います。</p>	<p>不登校の支援については、それぞれの困りごとや悩みごとに寄り添いながら目標を設定することが大事だと考えています。学校への登校だけを目標とするのではなく、不登校の児童生徒の意見も尊重しながら目標を設定する教育相談を実施するとともに、多様な学び方を選択できるような居場所を確保していきます。また、現在図書館の1室を活用した中間教室（スマイル教室）においても場所の確保を含め、担当係において検討していきます。</p>

26	<p>(P77)</p> <p>「こどもを見守る運動の推進」に関して教育委員会が推進する「ながら見守り」で本当に子どもの安全が守れるのかと、実際に見守りを毎日しているボランティアから疑問の声を聴きます。また、各種団体が横の連携なしにそれぞれ活動しているため、同じ個所に大勢のボランティアが立つことも起きています。ボランティア同士のコミュニケーションを図るコーディネーターの必要性を感じています。計画全般にわたって感じますが、文章の主語がはっきりしません。どこが責任をもって連携を作り見守りを実施するのが、理解できるように書いていただけるとありがたいです。</p>	<p>各種団体やボランティアの皆様の活動がより効果的に機能するよう、ご指摘いただきました連携の在り方については、今後の課題として検討を進めてまいります。また、「計画全般にわたって文章の主語がはっきりしない」というご意見につきましては、本計画は町の計画であるため、主語が明記されていない文章については「下諏訪町が」が主語となります。すべての部分に主語を記載すると文章が冗長になり、計画全体が読みにくくなってしまうため、省略していることをご理解いただけますと幸いです。今後も皆様のご意見を伺いながら、子どもたちの安全を守るために、持続可能な見守り活動の実現に向けて取り組んでまいります。</p>
27	<p>(P34)</p> <p>子育てしやすいまちと思わない理由 最も生な町民の声が出てますね。下諏訪町には『児童館が無い』『中間教室（行きやすい）が無い』『中高生の居場所が無い。』『ボールを蹴って遊べる公園も無い』町は重く受け止めて欲しい。『イオンの中に児童館的なもの』は作れるでしょうか？若い世代の声を多く聞き、居場所の様々なニーズにしっかり応えていただきたい。</p>	<p>『イオンの中に児童館的なもの』は作れるでしょうか？については、P50 に記載のとおり児童館に類似した機能を整備してまいります。『中高生の居場所』についても、P58 に記載のとおり検討を進めてまいります。『ボールを蹴って遊べる公園も無い』につきましては、町内の公園ではボール遊びを禁止していませんが、公園は、小さいお子さまからお年寄りの方まで誰もが安心して使え、集える場所であることから、他の人に危害を与える恐れのある行為や物が壊れる恐れのある行為などの迷惑行為は禁止しています。</p> <p>迷惑行為とならないボールの使用については、どこの公園でも可能ですので安心してボール遊びをお楽しみください。ただし、あすなろ公園は図書館が近接しているため、図書館側でのボール遊びは禁止しております。</p>

28	<p>(P67)</p> <p>障がいのある人のゆるやかな増加傾向</p> <p>この原因をどうお考えでしょうか。私は農薬の害が大きいと思います。図書館に『ネオニコチノイド』を研究された平久美子さんの本がありますが、ヨーロッパでは神経への影響の強さから使用を止めています。日本はアメリカの勧めで買っています。『ラウンドアップ』は枯れ葉剤から作られたと聞いた事ありますが、普通に子供の近くで使用は有りえない。</p>	<p>障がいのある方の増加については、さまざまな要因が関係していると考えられており、一概にこれが原因と申し上げることはできません。農薬の影響についても国内外で議論があることは承知しており今回いただいたご意見は今後の参考とさせていただきます。</p>
29	<p>全体</p> <p>99ページにわたる子どもまんなか計画を作った下さりと、自殺の増加、ひとり親家庭の困難さ、ヤングケアラーの問題、虐待・・・今の時代の子育ての大変さが良く分かります。でもこの用紙に書けるスペースは1/2もなく残念です。小学校の『相談員』を年110時間くらいのパートでやった事がありますが、是非常勤の専門の若者をあててサポートいただきたい。</p>	<p>『是非常勤の専門の若者を相談員にさせていただきたい。』というご要望として承ります。今後の町の施策の中で研究・検討してまいります。用紙のスペースについては申し訳ありません。多くのご意見がある場合は、複数枚に分けてお書きいただいても構いませんし、裏面をご活用いただいても大丈夫です。</p>
30	<p>(P99)</p> <p>①シルバー人材センターのような…</p> <p>下諏訪人材センターの設立(年金受給者を除く)ボランティアではなく、賃金をもらえる。雇用の場をつくる。町民のマンパワーで行政の困ったをケアするしくみづくり</p> <p>(学童保育、教育、補修、保全、保守 民間委託を減らすしくみ作り)</p> <p>②放送大学のような…</p> <p>下諏訪大学の設立(町民が企画する単位取得、生徒も講師も町民)</p> <p>不登校生、引きこもりの社会とのつながりの場づくり、多世代の学習の機会づくり(卒業証書交付)最短1年。何年かけて卒業してもOK。</p> <p>下諏訪町民人材育成、区の育成会行事を皆で運営するしくみ。</p> <p>③大学生協のような…</p>	<p>これらのご意見につきましては、町への貴重なご提案として承り、関係する担当課と情報を共有いたしました。今後の町の施策の中で研究・検討してまいります。</p>

	<p>下諏訪生協の設立（衣・食・住・職）</p> <p>物価高の最近、大人も子供も出費をおさえて生活してゆくために、リサイクル、リユース。</p> <p>困った解決のマッチング機関づくり。</p> <p>若手の意見が風とおしのよい町政にしてほしい。</p>	
31	<p>(P44)</p> <p>ハッピーマタニティ教室</p> <p>初産の方だけでなく、経産婦も参加できるようにぜひ実施していただきたいです。</p>	<p>ハッピーマタニティ教室については、現在すでに初産の方だけでなく経産婦も参加できるように実施しています。</p>
32	<p>(P48)</p> <p>保育士確保対策事業</p> <p>「町内で働く保育士の確保に向けて、民間の保育業界に特化した人材派遣会社の活用を図ります。」とありますが、人材派遣会社の活用に関して、ケアワーカーとして社会的に非常に重要な保育士という職業が、より非正規化され不安定化されていくことも同時に危惧いたします。保育士確保に努めていただくと共に、保育士という職業の安定化、労働環境の改善も町として同時に意識して取り組んでいただけるようお願いいたします。</p> <p>保育士確保に努めていただく際の人材派遣会社の活用は、あくまで一時的措置に留めていただきたいと思います。</p>	<p>保育士確保のための人材派遣会社の活用は、ご意見いただいているとおり一時的措置としております。</p>
33	<p>(P48)</p> <p>自園給食の提供・給食での地元食材の活用</p> <p>地産地消とこどもたちへの食育の推進を図るため、地元で獲れた食材を学校給食に積極的に活用していきます。とありますがとても魅力的な取り組みだと思います。教育移住施策においても大きな魅力化できるポイントだと思いますのでぜひ積極的に取り組んでいただきたいです。</p>	<p>ご意見ありがとうございます。計画に記載のとおり積極的に取り組んでまいります。</p>

34	<p>(P52)</p> <p>朝の読書活動</p> <p>読書も大変重要ですが、コミュニケーション能力の向上を図るため朝芸術鑑賞の時間もぜひとり入れていただきたいです。</p>	<p>ご要望として承り、担当課には情報を共有させていただきました。今後の町の施策の中で研究してまいります。</p>
35	<p>(P52)</p> <p>教職員の資質向上</p> <p>教職員の実践的指導力の向上を図っていただける研修も大変ありがたいことですが、教職員の負担が増えないような配慮も同時にお願いいたします。教職員の方々の心身の不調が増えている話も耳にしています。教職員の負担の削減、教職員の心身の余裕が回りまわって子どもたちの教育環境の向上にも繋がります。よりよい教育関係、働く環境、研修環境をよろしくをお願いいたします。</p>	<p>教職員へのご配慮くださりありがとうございます。いただいたご意見については、学校へ伝えさせていただきます。</p>
36	<p>(P53)</p> <p>「SOSの出し方に関する教育」の実施／情報モラル教育の推進</p> <p>「SOSの出し方に関する教育」「情報モラル教育の推進」は今後大変重要になって来るかと思えます。是非積極的に推進していただければ嬉しいです。</p>	<p>ご意見ありがとうございます。計画に記載のとおり積極的に取り組んでまいります。</p>
37	<p>(P54)</p> <p>キャリア教育の推進</p> <p>キャリアコンサルティングの方などの外部講師の授業や、地域の方々との連携で子供達が主体的に考えられるキャリア教育の推進をよろしくお願い致します。</p>	<p>計画に記載のキャリア教育については、担当課において地域の方々と連携しながら最善の方法を検討し推進してまいります。</p>
38	<p>(P54)</p> <p>食育の推進</p> <p>農業生産に関する町の実態を踏まえ、食育の重要性に気づくとともに、実践できる児童・生徒の育成を図ります。とありますが、今後の町全体での食料自給率なども踏まえて、ぜひ教育の中でも農業体験、食育の推進をよろしくお願い</p>	<p>計画に記載の食育の推進のなかで、いただいたご意見を踏まえながら実施してまいります。</p>

	致します。	
39	<p>(P54)</p> <p>性に関する教育の推進</p> <p>従来の性教育に加えて、包括的性教育や SRHR の観点を加えての実施をよろしくお願いいたします。</p>	<p>計画に記載の性に関する教育の推進のなかで、いただいたご意見を踏まえながら実施してまいります。</p>
40	<p>(P62)</p> <p>下諏訪町出会い・婚活プロジェクト</p> <p>婚活プロジェクトにおいては、参加した若者女性達からもあまりいい評判を聞きません。カップル成立率、成婚率などを分析しこの事業としての内容、費用対効果や意義を立証する必要があるかと思えます。</p> <p>若者の未婚率が高いのは、出会いがないのではなく、経済的・生活的余裕がないこと、また子育て世代の暮らしの経済的状況アンケート結果からもわかるように、子育てをする将来を描ける経済的余裕がないことが実感としての要因の大きな部分でもあります。</p> <p>こういった若者当事者が置かれる現実と行政で進む官製婚活の乖離が見られます。</p> <p>官製婚活を活用しなくても、出会いに関しては民間のマッチングアプリを若者は気軽に利用していますし、本気で結婚したい若者は婚活専用のアプリを利用して確実に結婚できる手法を取っています。この事業全体でのジェンダー視点、研修も取り入れていただくことも併せて求めます。</p>	<p>ご要望として承り、担当課には情報を共有させていただきました。今後の町の施策の中で研究してまいります。</p>
41	<p>(P62)</p> <p>結婚新生活支援事業／結婚新生活支援住宅</p> <p>今後、結婚にも多様な形が生まれてくるかと思えます。県に確認した所、事実婚、パートナーシップ制度利用した方などへの結婚新生活支援事業の対象の拡大をしている自治体も県内でも県外でも増えています。ぜひ従来の婚姻届けを受理された夫婦だけにとらわれず、若者の結婚の形の現状に即したジェンダー主流化視点での</p>	<p>婚姻届けの有無にとらわれない結婚新生活支援につきましては、町の様々な施策との整合性を勘案し、近隣の自治体の事例も参考にしつつ、総合的に研究してまいります。</p>

	事業の変革を望みます。	
42	<p>(P71)</p> <p>ヤングケアラーの早期発見・対応の充実</p> <p>自分がヤングケアラーになっている場合にその状況があたりまえで、自分が当てはまっていることに気づかないことが多くあります。ヤングケアラーについて、小学校・中学校・高等学校において授業などで周知を行っていただけると、自分が当事者であったんだという自己発見につながり効果があるかと思ひます、該当する児童・生徒の存在の把握に努めていただけますようによろしくお願ひいたします。</p>	<p>計画に記載のとおり小学校・中学校・高等学校において授業などで周知を行いながら該当する児童・生徒の存在の把握、更にそういった子どもへの対策を含めて努めていきます。</p>
43	<p>(P72)</p> <p>こどもまんなか社会づくりに向けた意識の醸成</p> <p>課題として、</p> <ul style="list-style-type: none"> ●「こどもまんなか社会」の実現に向け、こども・若者自身やそれを支える保護者やその他の大人たちが、こども・若者の権利について正しく理解し、町全体でこども・若者、子育てにやさしいまちづくり、人づくりをしていく必要があります。 ●こども・若者による意見表明の機会として、こども・若者の声を定期的かつ幅広く意見を収集できる仕組みが必要です。そのうえで、意見や提案をどのように町のこども施策に反映させていくか、検討が必要となっています。 <p>と記載がありますが、この子ども計画策定に際しても、未就園児～小学生の保護者の意見だけでなく、他の自治体では子どもの意見表明権を担保するために策定時から意見を練りこんでいるところ、計画案がこどもにもわかるような簡単バージョンも提示してパブコメを募集しているところがありました。作る過程からアンケートなどで児童・生徒の意見表明権の担保や若者の意見と一緒に作り上げていくことも大切なことではないかと思ひます。</p> <p>今回は残念でしたが、今後の取り組みにあるこども・若者の意見を得る機会の充実ような取り</p>	<p>ご意見いただいたとおり、より多くの方々の意見や要望を反映させることで、こどもにとってより良い計画となることが重要です。そのため、次期計画の策定にあたっては、こども自身が意見を述べる機会を設けることを検討し、その声を計画に反映できるよう努めてまいります。</p>

	組みに期待いたします。	
44	<p>(P75)</p> <p>子育てガイドブックの作成・配布</p> <p>現状に子育てガイドブックの毎年改定とありますが、せっかく素敵なガイドブックがあるのですが、こどもが生まれ母子手帳交付時にもらって、以後最新版は手元にない家庭も多くあるかと思えます。小中学生になって子育てに関する悩みがある場合、10年以上前の情報しか手元にない場合が多くあるようで、毎年改定されていて最新版はHPで見れる旨の周知も同時に必要になるかと思えます。</p>	<p>現状としては、最新版を作成した際には、新聞において周知するとともに、町ホームページにおいて最新版の子育てガイドブックをご覧いただけるようになっておりますのでご利用いただきたいと思います。令和7年度においては、公共施設に二次元コード付きのチラシを配布し、そちらからもご覧いただけるよう取り組んでまいります。</p>
45	<p>(P76)</p> <p>子育てと仕事の両立への支援</p> <p>課題と方向性、取り組みの内容について、大変素晴らしいものだと思います。</p> <p>男女が協力して子育てを行うことの重要性について周知するため、男女共同参画社会の実現に向けて実施している男女共同参画セミナーにおいて、子育てをテーマに扱った講演を実施するという内容もとても素晴らしく楽しみです。こういった取り組みを積極的に発信していただきたいです。</p>	<p>ご意見ありがとうございます。計画内容に沿って積極的に取り組んでまいります。</p>
46	<p>(P81)</p> <p>保育の必要性の中に、⑧育児休業中があることをありがたく思います。</p> <p>ニーズの高い育休中の未満児保育、育休退園の廃止にもつながることを期待いたします。</p>	<p>育児休業中の未満児保育や育休退園の見直しについては、多くの皆様からご意見をいただいております。まずは、安心してお子さまを預けられる環境を整えるために、保育士の確保を最優先に取り組んでまいります。その上で、育休退園等の見直しについても、利用者の皆様の声を踏まえながら、検討を進めてまいります。</p>
47	<p>(P99)</p> <p>計画の推進体制</p> <p>(2) 情報提供・周知</p> <p>ぜひ既存の手法だけでなく、こども、若者、子</p>	<p>本計画の見直しの際や次回の計画策定時には、いただいたご意見や他市町村の取り組みを参考にさせていただきながら、SNS等</p>

	<p>育て世代の情報取得ニーズに合わせた、SNS やデザインチラシ、ポスター、子供向けの内容など様々な手法を用いた情報提供・周知もよろしくお願い致します。</p>	<p>も活用しながら情報提供・周知を行ってまいりたいと考えております。</p>
48	<p>(全体を通して) パブリックコメントを集めているということを知らなかった。周知の工夫を！（住民の声をどれだけ吸い上げられるかが鍵） ex) ①すぐーるで園児・小学生・中学生・高校生の家庭に周知。②タウンミーティングを何回か開催して、計画案の学習会&意見交換会を実施する。③100頁もの計画案を精読&研究するのは大変。要旨をまとめて示し、住民がパブリックコメントを出しやすいように。④『こども』計画なので、小学生、低学年のこどもでも分かりやすい説明、概要ページを作成。</p>	<p>パブリックコメントの実施にあたり、新聞、ホームページ、広報誌への掲載、さらに子どもが関係する公共施設への募集チラシの配布を行い、周知に努めてまいりました。今後の計画策定時には、より多くの方に周知できるよう、『すぐーる』の活用も含めて検討してまいります。また、ご提案いただいた計画案の要旨の作成や、子どもにも分かりやすい概要ページの作成については、他市町村の取り組みも参考にしながら、より多くの方に意見を寄せていただけるよう検討を進めてまいります。</p>
49	<p>(P61～P62) 移住・定住について 現在、移住促進の取り組みは見られるが、定住の取り組みが希薄のように感じる。地域の人たちと関わる可以增加する機会を増やすべき。</p>	<p>現在、町の産業振興課において住宅取得に関する補助の実施のほか、移住後の生活に関する情報提供や困りごと相談、移住者同士の交流会の企画・実施により、移住者の皆様の定住支援を行っています。 ご意見いただきました通り、町の移住交流拠点「ミーミーセンター」では移住される前段階のご相談が大半であることから、移住後の困りごとについては把握する機会が限られているという課題もございます。 今後は移住後においても継続的に支援ができる関係性づくり、多くの移住者の皆様にご参加いただけるような交流会の在り方の検討を進め、移住者の皆様に寄り添った長期的なサポートの強化に努めてまいりたいと考えております。</p>

50	<p>(P60～P62)</p> <p>子育て・多世代交流施設の整備について</p> <p>イオン諏訪店案に頼りすぎず（本当に実現するか分からないので）、旧矢崎商店で行ったらどうか。移住者と地元の子ども～高齢者が交わる場所になれるのでは。</p>	<p>旧矢崎商店は町の新たな交流拠点として、移住者をはじめ、地域のこどもから大人まで町内外の様々な方に愛され利用してもらえる場所を目指しています。各種イベントを通じて子どもたちが町の歴史や文化に触れ、地域内外の様々な方々と世代を超えた交流が広がるような施設活用も考えておりますので、当事業へのご理解のほどよろしく申し上げます。</p>
51	<p>(P59～P60)</p> <p>「インクルーシブな公園整備」とのことだが、新たな公園を作る予算はないとのこと。そこで、既存の場所を最大限活用したら。</p> <p>Ex)①「ぼけっと」は小・中・高校生も利用できる場所に（給食室の設備が残っているなら、誰でも利用できる子ども食堂(カフェテリア)に。②小中(高)の空き教室を地域の人が利用できるコミュニティスペースに。③ドキュメンタリー映画上映会&その後の感想シェア会や W/S を多世代交流の場に（運営も多世代ボランティア）…昨年度の「みんなの学校」のように。④いずみ湖でのイベントに子どもだけで参加できるよう送迎シャトルバスの運行。⑤子育てガイドブックは生まれた時に配布されるだけ。ライフステージの節目ごとに配布されると、その時に合った支援を把握&利用しやすい。⑥向陽生との連携…チノチノをモデルに。大人が良かれと思って用意しても、当事者とのニーズのズレがありがち。中高生が主体的に作っていける居場所が実現できるような環境整備を。⑦社協運営(?)の老福センターや「にこっと」も子どもたちに開放しては。(PM3時以降は中高生の時間など)</p>	<p>多くのご提案をいただきありがとうございます。限られた財源の中で、新設の整備も困難なことから「既存の場所を最大限活用したら」というご指摘は非常に重要な視点になってくると考えます。</p> <p>①、⑥、⑦については、こどもの居場所に関する意見かと思いますが、P58 に記載の高校生の居場所や小中学生の居場所については、利用者の利便性にも配慮しながら検討してまいります。</p> <p>③、④については、担当課には情報を共有させていただくとともに、今後の町の施策の中で研究してまいります。</p> <p>②については、在校児童・生徒の安全確保の観点から、防犯上の課題があるため、慎重な対応が求められます。特に、校内への不特定多数の出入りの管理、児童・生徒との動線の分離、施設の管理責任などの面で課題があり、現状では容易に実施することが難しい状況であることをご理解いただきたいと思います。</p> <p>⑤については、ホームページから最新の情報を入手いただけます。令和7年度においては、公共施設に二次元コード付きのチラシを配布し、そちらから最新版のガイドブックをご覧いただけるよう取り組んでまいります。</p>

52	<p>(P61)</p> <p>進学・就職で多くの若者が町外に転出……とあるがその原因は？子ども・中高生のうちに地域の人たちとの多くの関わりがあると地元に戻って子育てしたくなる場所になる。子育てがしやすい環境づくりも必至。Ex)保育園や学童の充実。有機給食の導入など。中学3年生だけ給食の無料化には疑問。その予算を分配して、保育園・小・中の食材を有機にしたり、中3に関わらず全家庭の子どもの給食費減免に補てんしたりする方が、子育て世代は恩恵を感じる。不公平感がなくなる。</p>	<p>進学や就職を機に町外へ転出する若者が多い現状については、進学先や就職先の選択肢が限られていることが主な要因の一つと考えられます。一方で、ご指摘のとおり、小さいうちから地域の人たちと関わる機会を増やし、地元で愛着を持ってもらうことは、将来的に「この町で子育てしたい」と思ってもらうために重要だと考えております。子育てしやすい環境づくりの整備については、保育園や学童の充実、食の安全性向上などを踏まえ、より広い世帯に恩恵を感じてもらえるような施策の在り方を財源の確保も含め、引き続き慎重に検討してまいります。</p>
53	<p>(P66)</p> <p>就学援助等に関連して…</p> <p>リユースイベント（常設の場所）があると良い。おもちゃ、文具、服、制服、運動着、リコーダーや鍵盤ハーモニカ、算数セットなどの学用品の寄附、交換会。生活に困っている家庭だけでなく、全家庭が利用できるように。SDGsにもつながる。</p>	<p>リユースイベントや常設のリユーススペースの設置は、学用品や衣類などの有効活用を促進し、経済的負担の軽減やSDGsの推進にもつながる良い取り組みだと考えます。こうした取り組みが、地域の団体や有志の方々が主となって、「三角八丁」などのイベントで実施されると、さらに多くの方に活用していただける機会になるのではないかと期待しております。</p>
54	<p>(P59)</p> <p>なぎがまやノースのコミュニティスクールが窓口となって、学校と地域の人々をつなぐ支援が充実できると良いと思う。PTA一学校、PTA一地域の人々も併せて。</p>	<p>各校区にあります「なぎがまコミュニティスクール」や「ノース下諏訪ネットワーク」につきましては、学校と地域の連携ネットワークを明確にし、地域住民の参画により、学校支援の拡大と共同活動を推進し、「地域と共にある学校」づくりを目的として設立されています。組織の中にはPTAのOBの方も含まれており、コロナ禍を経過し思うように活動が出来ない時期もありましたが、現在は着実に活動を推進していただいております。</p>

55	<p>全体を通して</p> <p>①パブリックコメントを募集しているという情報発信が少なすぎます。関心がある人しか意見を届けられないと思います。この計画の主役である、0～39歳の人たちの意見をどれだけこの計画（案）に入れる努力が行われたのでしょうか。幼稚園・小学校・中学校・高校で当事者たちが参加してボトムアップで計画を作り上げていく過程をもっと大切にしてほしいです。</p> <p>②策定の趣旨でこども大綱において掲げられている憲法・こども基本法・こどもの権利条約の精神に則ると書いてあるはずなのに、全体を通して権利の主体である子どもたち・若者の意見を反映して作られている計画とは到底思えず、ただ「これまでの社会システムを維持したい人たちがつくっているんだな」という印象です。個人の選択であるはずの結婚や出産に行政として介入しようとしていたり、今の下諏訪の社会や産業の後継者をつくることに重点を置いていることが気になります。少子化で焦る気持ちはわかりますが、行政としてこのような姿勢では下諏訪町を魅力的に感じる子ども・若者はほとんどいないと思います。子ども・若者がこの町でなら自分らしく暮らしていけるというメッセージを発信していかないとむしろ今いる貴重な若い人たちの流出も止まらないと思います。</p>	<p>①パブリックコメントの募集について、情報発信が十分でなかった点については、今後の改善点として受け止めております。この計画案を策定するにあたり、0～39歳の方々を含む地域の声を反映するために、ニーズ調査や住民満足度調査を実施し、いただいた意見をもとに計画を作成しています。また、計画案を作り上げる過程で、幼稚園・小学校・中学校・高校の当事者たちが参加することについては、重要な視点として捉え、P72に「こども・若者の意見を得る機会の充実」を記載させていただきました。</p> <p>②結婚や出産に対する行政の介入について、個人の選択を尊重すべきというご指摘は、非常に重要な点だと考えていますが、一方で、結婚や出産に関して支援を求める声も多く、特に少子化が進む中で、地域社会の持続可能性を考えた支援策が求められている現実もあります。このような声に応える形で、支援を必要とする家庭に対して支援策を講じることが行政の役割として位置づけられています。子どもや若者が自分らしく暮らし、魅力的な場所と感じてもらえるような町づくりが非常に重要であることは町としても強く認識しており、今後の町の施策の中で研究してまいります。</p>
56	<p>(P62)</p> <p>下諏訪町出会い・婚活プロジェクトについて、婚活事業はすでにマッチングアプリなど民間で十分に行われています。行政が担うべきは出会いの場をつくることや婚活支援ではなく、公共の福祉を増やすことです。それに結婚をする・しないは人生に大きく関わることで本人の自由意志にゆだねられるべきです。行政が婚活する</p>	<p>婚活事業について、結婚が個人の自由意志に基づくものであり、行政がその支援に関与することに対して懸念を抱かれることは理解できます。一方で、婚活イベントに多数の応募がある状況もあり、婚活支援を求める方々が存在するのも事実です。そのため、婚活事業の今後の方向性について</p>

	<p>ことを推進するようなメッセージを発することは人権侵害だと思います。こんなことに貴重な税金を使わないでください。</p>	<p>ては、人権に配慮しつつ慎重に検討してまいります。</p>
57	<p>(P62) 結婚新生活支援住宅について、「特定の年齢以下”かつ”特定の年齢以下の子どもを扶養している世帯を対象に、期限付き入居制度を実施します」となっていますが、今は入居の条件に子どもを扶養していることは必須ではないはずで、これは新たにこの条件が追加されるということでしょうか。子どもを持つ・持たないは女性のSRHRにもかかわる問題ですし、カップルによっても考えはさまざまです。多様な価値観を持つ若者に寄り添った街づくりをしていきたいなら今後も子どもを扶養していることを条件とするべきではないです。また、今は選択的夫婦別姓が選べないことから婚姻制度を利用できなかったり、同性婚もできないため、この住宅に入居できるカップルは限られます。若者を応援したいなら事実婚や同性カップルの入居もできるよう規定を変えてほしいです。この住宅だけではないですが、「住まいは権利」という視点で、若者が経済的負担ができるだけ少なく住める場所をもっとたくさん増やしていくべきです。</p>	<p>ご指摘ありがとうございます。記載が誤っておりましたので、「町内の公営住宅において、結婚を機に新しい生活を始める世帯を対象に、期限付き入居制度を実施します」に修正しました。</p>
58	<p>(P63) 課題として「若者が抱える困難や生きづらさの原因はいじめや学校生活への不適応、ひきこもり、健康問題、障がい、虐待・孤立、経済的困窮など多岐にわたります」とあります。しかしこれは因果関係が逆です。社会の中に子どもたちにとっての困難や生きづらさがあるから上記のような状態に陥るのだと思います。今、困難や生きづらさを抱えつらい思いをしている人が頼る先があるのは大切です。しかし、その人に原因があるという捉え方ではなく、下諏訪町や社会の状況が子どもたちや若者を生きづらくさせているということを自覚してすべての人が個人として尊重されるよう町としての姿勢を発信</p>	<p>ご指摘の通り、社会や地域が子どもたちや若者を生きづらくさせてしまっているという認識を持つことは、町全体の取り組みとしても大切な方向性だと考えています。今後、このような視点を大切に、町全体で取り組んでいけるよう努めてまいります。</p>

	してほしいです。	
59	<p>(P44)</p> <p>産後ケアのデイケアについて、案内もなくママ友づてに初めて聞きました。</p> <p>また宿泊型のケアが半年となっていますが、7ヶ月頃から後追いや人見知りが始まり、疲れもたまってくる頃ですし、そんな時に利用したいと思うのですが難しいのでしょうか？</p>	<p>産後ケア事業のご案内については、妊娠届出時、出生届出時にすべての方にご案内しております。通所型（デイケア）については、令和6年度から開始した事業のため、対象となる方には個別通知でもご案内させていただきましたが、案内が不十分だった可能性があり、申し訳ございませんでした。</p> <p>今後は、より一層周知方法を工夫し、皆様に確実に情報が届くよう努めてまいります。</p> <p>また、宿泊型ケアの期間については、産後4か月頃までとさせていただいておりますが、受け入れ先の病院の安全管理体制によるものからこのようなご案内となっております。ただし、実施機関によっては産後4か月以降（産後1年未満の間）も利用が可能な場合もありますので、個別にご相談ください。今後も利用者のニーズを踏まえた事業の検討をしております。</p>
60	<p>(P45)</p> <p>健診会場が保健センターの2階になっていますが、子どもを抱きながら階段を登り、未就園の兄弟を連れていかなければいけないことがとても大変でした。</p> <p>じっとしていられない兄弟を見ながらゆっくり話をすることもできず、また階段から落ちないように見守ったり、静かにするよう言い聞かせなければならず、兄弟のいる家庭にはハードルが高い環境と感じます。</p> <p>産後のダメージの大きい1ヶ月健診だけでも会場をぽけっとにして、兄弟がいる場合にはその時だけ先生やファミサポの方に見守りをしてもらえたら、ゆっくりかつ安心して健診に望めるのでは？と思いましたが、難しいのでしょうか？</p> <p>初めてのお子さんの家庭に対してぽけっとの周</p>	<p>1か月児健診は、令和7年度から実施する事業で、出産した医療機関等で個別に健診を受けていただくものとなります。</p> <p>保健センターを会場として実施する産後に近い事業には、2か月児相談や4か月児健診があります。保健センターを健診会場とし、安心して健診に臨める環境を提供できるよう研究してまいります。</p> <p>また、「ぽけっと」の利用や初めてのお子さんの家庭への周知についてもご提案いただきありがとうございます。現在は、乳幼児健診で個別に周知するほか、妊娠中からご活用いただける母子手帳アプリ（母子モ）を活用した周知やハッピーマタニティ教室（妊婦教室）を「ぽけっと」で開催し、出産前からぽけっとの様子を知っていただく</p>

	<p>知にもなるし、一石二鳥な気がします。</p>	<p>取り組みをしております。引き続き、より多くの方にタイムリーに周知できるよう工夫して参ります。</p>
<p>61</p>	<p>(P47)</p> <p>教職員と同様、保育士の資質向上を望みます。通園をはじめて間もない子どもが頻繁にトイレに行くことをため息混じりで話されたり、子どもの目の前で排泄の失敗や、できなかったことについて大っぴらに話をしたり、子どもの気持ちをないがしろにしているように感じられる対応に愕然とすることがありました。仕事もあり休ませることもできず、保育園に行かせることもかわいそうな気がして二重にストレスを感じる日々でした。保育園の入園説明会の一番はじめに「子どもの養育は家庭が第一」とまずお話しされることで、子育て支援をする立ち位置ではないように感じてしまいました。親以外の大人や兄弟以外の子ども達と関わるのが子どもの成長には必要であり、大切なことと思うのですが、それが良しとされていないのか？と感じました。</p> <p>また、入園2週間ほどで2日に渡り約15分ほど保育園に足を運ばなければいけないというのは仕事をしているなかでかなりの負担でした。15分程度なら1日に集約することはできないのか？と思ってしまいましたが、何か理由があるのでしょうか？</p> <p>最後に一点、こういった重要な計画へのパブリックコメントを募集するにあたり、保育園の連絡網(すぐーる)をご活用いただき、子育て世代の意見を求めていただけたら嬉しかったなと思います。</p> <p>普段親同士の会話では町の子育てに関する話題が上がることも多いため、まさに計画にの渦中にある子育て世代との意見交換の場も設けていただけたらとても嬉しく思います。</p>	<p>・保育士の資質向上に関して、お子様がトイレに行く頻度や排泄に関する対応について、ため息混じりに話すことや失敗に対して大っぴらに話すことがあったとのこと、事実関係を確認し、指導してまいります。お子様の気持ちに配慮し、安心して過ごせる環境を提供するために、今後も職員の指導と共に、気持ちを大切にされた対応を徹底してまいります。</p> <p>・入園説明会で「子どもの養育は家庭が第一」という言葉をお伝えしたのは、「こども基本法」において「子どもの養育は家庭を基本として行われるべきであり、父母その他の保護者が第一義的責任を有する」と定められており、この理念に基づくものです。しかしながら、保育園としては、家庭での養育を支援しつつ、子どもたちが社会的なつながりを持ち、成長するために必要な支援を行う場所であることも重要な役割であると認識しています。この点について誤解を招いたのであれば、説明が不足していたことを反省し、改善いたします。</p> <p>・15分程度の保育園への訪問については、年少の親子講座として、親子一緒に園児服の着替え方などの基本的な生活習慣を確認しながら、保育園でのお子様の様子を見ていただくことを目的として実施しています。この時間は、園児にとっても大変重要なものであり、保育園での生活をよりスムーズにスタートするための大切な機会と考えています。とはいえ、保護者様にとってはご負担を感じられることもあるかと思っておりますので、いただいたご意見を真摯に受け止め、今後の実施方法について検討させていただきます。</p>

		<p>・子育て世代の意見反映については、本計画の見直しの際や次回の計画策定時には、いただいたご意見や他市町村の取り組みを参考にさせていただきながら、より良い方法を検討してまいります。</p>
--	--	---